

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100185		
法人名	有限会社 ラポール		
事業所名	グループホーム 神埼ひだまり		
所在地	神崎市神埼町竹4694番地1		
自己評価作成日	平成22年3月20日	評価結果市町村受理日	平成22年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人佐賀県社会福祉会
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 22年 5月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に事業理念である『笑顔と真心ですべては利用者の為に』を念頭に置き接しており、日常生活の中で、入居者がそれぞれ得意とすることをしていただき、主役となっていたりできるように支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐賀平野の田園地帯の集落に位置し、利用者はゆっくりとした空間の中で生活されていた。24時間対応の訪問診療を行ってもらう等、医療機関とは密な関係が結ばれており、利用者も安心した生活を送られている。
 区の清掃に参加したり、日常の散歩で近隣の方々と話したり、子供110番の家として小学生の通学を見守る等、地域活動や人々との交流に積極的に取り組まれている。
 消防計画を基に、年2回(1回は消防署立会い)避難訓練が行われている。近隣の方々も参加し、協力体制も築かれてはいるが、地震・水害時において、近隣の方々が誘導等に困惑しないように、避難場所を明確に伝えておくことが、望まれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔と真心ですべては、ご利用者の為にを理念とし玄関に大きく掲示し、いつでも見れる状態にし、出勤の際には必ず見るようにしている。	「笑顔と真心ですべては、ご利用者の為に」と独自の理念を作り上げ、職員や家族の方にも見れるように、玄関に大きく掲示してある。職員は、普段の関わりの中でも、笑顔を絶やさないようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番の家として日頃より小学生の通学を見守っている。近隣の散歩や行事での交流は行っている。	区の清掃に参加したり、日常の散歩で近隣の方々と話をしたり、子供110番の家として、小学生の通学を見守る等、地域活動や人々との交流に積極的に取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で介護での相談所的な場所でありたいとかがえており、地域の方より相談があれば、相談に乗っているが事業所からの情報発信などは出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見を大切にし、サービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議は、区長・民生委員・家族・市役所の職員等をメンバーとして、2ヶ月に1回開催され、避難訓練等についてアドバイスを受けたりしている。又、参加しやすいような時間帯の工夫が見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議などの参加時には、取り組みや情報交換をしているが、日頃から密に連絡は出来ていない。	2ヶ月に1回、市役所主催で開催されるケアネット神埼に参加し、情報交換を行ったり、困った時には相談しアドバイスを受ける等、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルに沿い禁止の対象となる行為を理解し玄関も夜間以外は施錠せず、見守りにて自由に入出入りして頂いている。	身体拘束廃止マニュアルを基に勉強会を行い、弊害について職員は理解している。日中は、玄関の鍵をかけずに、見守りにて自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では、職員に資料等を回覧してもらいご利用者の尊厳を十分に考え、職員やご利用者の状態を観察し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員、権利擁護に関する制度を学ぶ機会が出来ておらず、今後、会議や研修などで学ぶ機会を持ち活用できるように努める		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分時間を取り、その後も不安や疑問点等あれば、その都度説明し納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見や事業所内に意見箱を設置し外部者へ表せる機会を設けている。	玄関に意見箱を設置したり、毎月の支払い時に声掛けをして意見を聞いたり、又、広域連合や国保連について説明をする等、意見・要望を管理者や職員並びに外部者へ述べる機会を設け、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に職員の意見、提案を聞くようにしている。必要であれば会議等を開催しているが、全部の意見が運営に反映できてはいない。	月1回のカンファレンスや全体会議あるいは、日頃の活動の中で話を聞き、運営に反映させるよう取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績、勤務状況の把握には努めているが全職員が向上心をもって働けるような取り組みは現在出来ていないため、やりがい、向上心をもって働けるように努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、研修への参加回数が少ないため、今後は研修への参加機会の確保に努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は勉強会や会議などに参加することにより交流し質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の声に耳を傾け、不安や心配に思う事を聞き出し対応し、安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話には十分「時間」を取り、不安や心配に思っている事や要望を聞きながら、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と話しをし必要としている支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を通して学ぶ事も多く手伝いをして頂いたり、率先し行われる方もおられ共に暮らす者同士の関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人をこれからどう支えていくのか、入所時に話したり、行事等の場を提供し関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行っていた美容院、病院がある場合は、ご本人、ご家族の意向を聞きその意向に沿えるように努めている。	昔から行っていた美容院や、家族の協力を得て仏壇を参ったり、知人が訪ねて来る等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様子を見ながら職員が入居者の間に入るなどし、孤立されないように配慮している。入居者同士で助け合う姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関わりが必要な方にたいしては、電話連絡や訪問し相談を聞き変わらない付き合いに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、ご本人が過ごしたいように生活していただいている。また、今までの生活パターンや希望をご本人、ご家族に伺い、考慮し毎日を過ごして頂くように努めている。	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。態度や表情等から、その真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、家族から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時に生活歴やこれまでの生活についてご本人やご家族、担当ケアマネに伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合わせた生活を送っていただくことで、身体の状況や能力の把握は必要不可欠であり、全職員で統一したケアが出来る様、日々気付いた事を申し送りノート等に記載したり口頭で伝えたりし把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人本意になるように介護計画を作成しご本人、ご家族の意見、意向を聞き、カンファレンスにて職員の意見、アイデアを取り入れ作成している。	本人や家族には、日頃の関わりの中で聞いた思いや意見を基に、職員間においては、カンファレンスや日々のケアの中で話し合いが行われ、利用者主体の暮らしを反映した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果等をケース記録に記入し、またカンファレンスを行い職員間での情報を共有しながら計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望に柔軟に対応出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練では消防署や近隣の方に協力していただいたが、今後は地域資源(学校や保育園)などとの交流が出来るように努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医の希望があれば、ご本人、ご家族の希望に沿うように対応している。また、その医師とも連携を取り適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。24時間対応の訪問診療を行ってもらう等、医療機関とは密な関係で結ばれている。通院介助も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成担当者が看護師である為、日頃の様子等の相談をしている。また、往診の医師と連携し適切な受診、看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、医師や病院のソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換や相談をし早期に退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化または、終末期に向けた事業所の方針を決め早い段階からご本人、ご家族と話し合う様にしている。	重度化した場合や終末期のあり方について、指針が文書化されており、早い段階から、話し合いが行われている。状況が変化すれば、その都度、話し合いを行い、対応していく体制作りがなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは作成し説明しているが、定期的な訓練や研修は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づき避難訓練を消防署、近隣の方に参加していただき行っている。	消防計画を基に、年2回(1回は消防署立会い)避難訓練が行われている。近隣の方々も参加し、協力体制も築かれている。	地震、水害時においても、誘導等に困惑しないように、避難場所を明確に伝えておくことが、望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分配慮し羞恥心や自尊心を傷つけないように言葉かけ、行動している。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないような、言葉かけがなされている。 個人情報についても、事務所の鍵のかかる所に保管され、厳重に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるように言葉かけし、自己決定を基本とした対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人が過ごしたいように生活していただいている。また、今までの生活パターンや希望などをご本人やご家族に伺い、それを考慮し毎日を過ごしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容室より定期的に来ていただいているが、カットのみであり、毛染めやパーマの希望があれば美容室を利用していただいている。場合によっては職員で毛染めや化粧の手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で配膳や下膳を行ってもらい、毎日ではないが料理の下ごしらえや味見をしていただいている。	料理の下ごしらえや配膳・下膳を利用者と共に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事できるよう、雰囲気作りも大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックし摂取量把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや義歯の洗浄、希望者のみではあるが、毎週訪問歯科にて、口腔内清掃、リハビリを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、オムツを使用せずに排泄チェック表を使用し、個人の排泄パターンや状態に合わせてトイレ案内するようにしている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、トイレ誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。 夜間もオムツを使わず、尿とりパットのみ使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く食材に使用したり、ヨーグルトや水分を多く提供している。適度な運動、腹部マッサージやホットパックを行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに言葉かけをし、入りたい時や時間に出来る限り合わせて入浴していただいている。	風呂は、毎日に入れるようになっており、入浴したい日、希望する時間に入浴していただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に合わせて昼夜逆転などがない限りは、昼夜共に休みたいときに休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報や薬の本を利用し、薬についての副作用や用法、量について理解するように努めている。また、症状の変化に気をつけ変化が見られて際には、直ぐに主治医、薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や個人に合わせた役割を持っていたい。また、好きなことや楽しみ事を好きな時に出来る限りしていただいているようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人、ご家族の希望により、外出されたり、ドライブや、庭、集落への散歩に行かれています。	本人や家族の希望に応じ、日常的な散歩やドライブ等に出かけている。歩行が困難な方でも、車や車いすを利用し、戸外へ出かけられるよう支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じて家族と相談しお金を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があれば、電話を使用してもらったり、個人で携帯電話を持ってある方もおられ自由に出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いていただけるよう、花を飾ったりし生活感を重視している。音、光、温度などに十分配慮している。	浴室の温度差がないような配慮が見られたり、西日が強い場合には、よしずを用いて遮ったり、玄関先に掲示されている花の写真を、季節に合わせて変える等、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで仲よし同士で話したり、一人でソファーでくつろいだりとして入居者間で空間、場所ができています。ホーム内は広くない為、共同空間と自室の行き来は皆さん簡単にできています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく新しい物は購入せずに使い慣れた物や好きだった物を自由に持ってきていただいている。	写真やぬいぐるみ、自分の好きな本等が、部屋に持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるような配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場、トイレ、居室には目印を付け自ら移動できるように努めている。		